

赤十字 NEWS

http://www.jrc.or.jp

JUNE 2017
NO.925

6

平成29年6月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第925号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

「支える人」に、
なるために。

日本赤十字社では120年以上にわたり
看護師養成を続けています。
保健医療はもちろん、災害救護や国際活動など、
赤十字の看護師の活動は多岐にわたります。
いかなる状況でも、人間のいのちと健康・尊厳を守る――。
赤十字の理念を体現する看護師たちは、
今日も日本全国、世界各国で
活動を続けています。



フロレンス・ナイチンゲール記章
近代看護の礎を築いたフロレンス・ナイチンゲールの生誕百周年を
記念して創設された。このメダルは第一回(1920年)受章者萩原タ
ケ女史に贈られたもの。



フロレンス・ナイチンゲール記章
第一回受章者にメダルと共に贈られた章記。F・ナ
イチンゲール記章は「傷病者、障がい者または紛争や
災害の犠牲者に対して、偉大な勇気をもって献身的
な活動をした者や、公衆衛生や看護教育の分野で顕
著な活動あるいは創造的・先駆的貢献を果たした正規
看護師や篤志看護補助者」に贈られる。

CONTENTS

FEATURE__2

命を見守る人として
“自分らしく生きる”
を支えたい。

SPECIAL TOPICS__4

赤十字運動月間 報告
Column
[とっさのとき、どうする?]
やけど

AREA NEWS__6

愛知/静岡/広島/兵庫/岐阜
Column
[健康豆知識]
豚肉と旬の野菜で夏バテ予防

WORLD NEWS__8

長崎から世界へ――。
核兵器禁止条約への強い願い



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

赤十字医療施設で働く2人の看護師と、赤十字看護教育の指導者。立場や世代の異なる3人が、それぞれの体験を通じて感じていることを語り合いました。赤十字の看護の魅力や独自性、そしてその根幹をなす「人道」や「人間愛」とは――。



その人らしく生きるために、看護師として、今何ができるのかを考える

—この座談会では、「赤十字の看護には、どんな魅力や特徴があるのか?」というテーマで、看護師を育成する立場、臨床の現場で患者さんと接する立場の双方から語っていただきたいと思います。最初に看護師4年目の市川さんから、日頃の業務の中で「赤十字の看護」について感じていることをお話しください。

市川さん 私が勤務する病棟には、肺がん罹患した終末期の患者さんが多くいらっしゃいます。肺がんと診断された初期の入院では、がんと闘いながらも元気だった方の中には、抗がん剤治療を受けるため再入院を繰り返し弱々しくなって、最期を看取る方もいらっしゃいます。

この病棟に勤務して心掛けるようになったのは、「患者さんとは治療を始めたばかり

で元気があるうちに、できるだけたくさん話してコミュニケーションを取る」ということ。元気な患者さんに対して、私たち看護師ができることは決して多くはありません。でも、多くのケアが必要になる最期の頃には、患者さんは自分の意志を伝えることが難しくなり、コミュニケーションが取れなくなってしまう……その時に適切なケアを行えるように、元気なうちにこそ会話を通して、信頼関係を築いておくことが大事なんだ、と気が付きました。

本庄先生 看護の基本は、その人がその人らしく生きるために、自分は今、何ができるかを考えること。それこそが、赤十字看護の根幹を支える「人道」や「人間愛」そのものだと思いますが、市川さんは日々の業務の中で自然にそのことに気が付き、行動を起こした。患者さんのことを本当に大切に考えているからこそ気付いたのでしょね。

“自分らしく生きる”
命を見守る人として
を支えたい。



赤十字看護専門学校の戴帽式(宣誓式)。一人一人が赤十字の理念を胸に、看護の

SPEAKER 1 KEIKO HONJO



日本赤十字看護大学 研究科長 教授

本庄 恵子 (ほんじょう けいこ) さん

日本赤十字看護大学卒業後、武蔵野赤十字病院で看護師として勤務。その後、日本赤十字看護大学大学院に進学。1999年、看護学博士号を取得。2011年より日本赤十字看護大学教授。2015年より同大学大学院看護学研究科の研究科長となる。

大切にされた体験が、大切にされる心につながる

元田さん 赤十字の病院では、患者さん一人一人を本当に大切にしていると思います。私は個室の病棟を担当していますが、個室の患者さんは、入院する以前の暮らしや仕事、人間関係をそのまま維持したいという思いが強いように感じます。ですから、患者さんの「こうしたい」という要望には、できる限り耳を傾けるよう心掛けています。もちろん、時には患者さんに厳しく接することもあります。それは、その方のことを真剣に考えているからこそ。看護スタッフの厳しい言葉にも患者さんが耳を傾けてくれるのは、「あなたのことが大切だから」という気持ちが伝わっているからだと思います。

本庄先生 赤十字の看護大学でも「一人一人を大切に」という大学の理念を学生たちに伝えるために、指導する私たちが常に心掛けています。それは、学生たち一人一人を大切に育てること。目の前の一人を大切にできる看護師になるためには、自分が大切にされた、という経験が必要なんです。

市川さん 確かにそうですね。私自身、今になって学生時代を振り返ってみると、先生方や指導にあたる先輩方に、本当に大切にさせていただいたと感じます。時には、患者さんやご家族の言葉から元気をいただくこともあり

SPEAKER 2 ATSUKO GENDA



日本赤十字社医療センター 看護師長

元田 敦子 (げんだ あつこ) さん

日本赤十字社医療センター神経内科・腎臓内科病棟所属。2005年11月、国際救援派遣(パキスタン北部地震)。2015年9月、国内救護派遣(北関東豪雨に対する救護班)。現在は看護師長として、看護部や他部門との調整、スタッフの教育・支援などを担当。

ました。自分が大切にされた経験が、「一人一人の患者さんを大切にしたい」という気持ちを起こさせるんですね。

本庄先生 私たちがよく言うのは、「ケアし、ケアされた体験が、ケアする心につながる」という言葉。赤十字のさまざまな活動は、「苦しんでいる人を救いたい」という心があるからこそ実現されるものですが、「一人一人を大切に」という赤十字看護の心と、深いところでつながっていると思います。

敵味方の区別なく中立を貫き、苦しむ人を救うための活動

——日赤では、病院での医療・看護だけでなく、災害救護や復興支援など、国内外でさまざまな活動を行っています。元田さんは2005年10月に発生した「パキスタン北部地震」の医療救援活動に参加されましたが、「赤十字の理念」を実感するような体験やエピソードがありましたら、教えてください。

元田さん パキスタンのインド国境に近いチナリという町で、11月から2カ月間、医療救援活動を行いました。現地では、診療所のある村から車に乗って町に出かけ、普通に買い物をしていたのですが、ある時、町で赤十字ではないキューバの救援チームを見かけて驚きました。彼らには護衛のため、小銃を持った兵士たちが常に同行していたのです。

SPEAKER 3 NAHO ICHIKAWA



日本赤十字社さいたま赤十字病院 看護師

市川 奈穂 (いちかわ なほ) さん

さいたま赤十字看護専門学校卒業後、さいたま赤十字病院入職。呼吸器内科所属。主に慢性呼吸器疾患の患者の看護を担当。災害救護に関心があり、赤十字の看護学校に進学。入学直前に東日本大震災が起こり、看護師への想いが強くなった。

市川さん 実は、それほど危険な地域だった……ということですね？

元田さん そうなんです。そんな地域であるにもかかわらず、私たちは兵士の警護がなくても、救援活動を続けることができたのです。その時に初めて、「赤十字のマークをつけた車で移動し、赤十字マークのついた制服姿でいること、この赤十字マークが自分たちを守っていたのだ」と悟りました。

本庄先生 赤十字マークは、戦争や紛争などで傷ついた人々と、その人たちを救護する軍の衛生部隊、赤十字などの救護員・施設などを保護するための印です。そのため、紛争地域などにおいて、赤十字マークを掲げている病院や救護員などには、絶対に攻撃を加えてはならないと国際法や国内法で厳格に定められているのです。赤十字が、敵味方の区別なく中立の立場を貫き、苦しむ人を救うための活動をしていることを、パキスタンの人々も知っていたんですね。

——世界中の紛争地域や災害現場で苦しむ人々、そして病院のベッドで病やケガに苦しんでいる人々……国や立場の違いを超えて、苦しんでいる人を救いたい、一人一人の命を大切にしたいという赤十字の理念が、皆さんのお話から見えてきたように思います。貴重なお話、ありがとうございました。 ■



道への決意を新たにする。

第46回 フローレンス・ナイチンゲール記章を受章！
名古屋第二赤十字病院 伊藤明子 看護部長

5月12日、赤十字国際委員会はフローレンス・ナイチンゲール記章の受章者を発表し、日本から名古屋第二赤十字病院の伊藤明子看護部長が受章しました。これは2年に一度、顕著な功績のあった看護師等に贈られる記章で、今回、世界22カ国39人が受章しました。紛争地域において、国際赤十字の医療チームの事業責任者を務めるなど多くの現場経験を持つ伊藤看護師は、国内外での看護活動や災害救護活動の功績が認められました。なお、伊藤看護師の受章により、日本からの受章者は108人となりました(総数は1488人)。授与式では、日本赤十字社名誉総裁である皇后陛下より記章が授与される予定です。



アフガニスタンやケニアなど紛争地域での経験が豊富な伊藤看護部長

©ICRC

TOPICS



香川県ではJRC加盟校の高松市立勝賀中学校の生徒と二番丁幼稚園の園児が協力を呼び掛けました

TOPICS 赤十字運動月間 報告

2017年5月1日~31日

赤十字の創始者アンリー・デュナンの誕生日である5月8日は、世界赤十字デー。日赤では、「世界赤十字デー」がある5月を赤十字運動月間としています。赤十字運動や活動への理解をより深めていただけるよう、全国各地でさまざまな活動を実施しました。



東京都支部は、全国赤十字大会が行われた明治神宮会館のある原宿・表参道で5月1日から14日まで赤十字フラッグを掲揚。フラッグ掲揚は大久保通り(5月1日~14日)や、新宿通り(5月22日~6月9日)、京都府の七条通り(4月10日~5月21日)など、全国に広がっています



福島県支部は、福島県立図書館にて「赤十字パーク2017 in 県立図書館」を開催。赤十字の歴史が学べる企画展のほか、親子で楽しめる映画の上映、子ども用救護服の試着体験、健康講演会や救急法講習会などを実施しました

世界赤十字デー レッドライトアッププロジェクト2017

世界赤十字デーを中心に、全国各地の歴史的建造物やランドマークが赤十字色に！ 下記の他、北海道、富山県、石川県、愛知県、鳥取県、島根県、愛媛県、大分県、鹿児島県でもプロジェクトが行われました。全国39カ所を灯した全ライトアップはこちらの特設ページをご覧ください。

http://www.jrc.or.jp/information/170428_004761.html

QRコードからも、特設ページがご覧頂けます。→



山口県 海峽ゆめタワー



兵庫県 人と防災未来センター



重要文化財！ 京都府 京都府庁旧本館



千葉県 千葉ポートタワー



東京都 清水建設



東京都 虎ノ門ヒルズ



重要文化財！ 山形県 山形県郷土館「文翔館」(山形県旧県庁舎)



福井県 吉岡幸テクノセンター



世界遺産！ 京都府 元離宮二条城



山梨県 武田信玄像



重要文化財！ 長崎県 眼鏡橋



秋田県 秋田市ポートタワー(セリオン)



国宝！ 長野県 善光寺



山口県 山口県指定有形文化財！ 太翔館(下関市立豊北歴史民俗資料館)



国宝！ 滋賀県 彦根城

大阪の食博覧会で災害食を普及!

東北3県の奉仕団も参加



炊き出しを食べた来場者からは笑顔がこぼれました

大阪府支部は、4月28日～5月7日に開催された「17食博覧会・大阪」にて、延べ100人以上の赤十字奉仕団員参加のもと、炊飯袋による親子

炊き出し体験と、大鍋での炊き出しを実施しました。

親子炊き出し体験では、大勢の親子が炊飯袋を使って一斉にお米を炊



岩手県のボランティアと支部職員が行った、岩手県の郷土料理「ひつつみ」は大好評

く体験をすることで、助け合いの精神を実感。大鍋を使って、同支部が関西福祉科学大学の災害食研究者の協力で新たに開発した、郷土料理を意識したレシピや、東北3県(岩手、宮城、福島)の奉仕団員と各支部職員による郷土料理の炊き出しを行い、

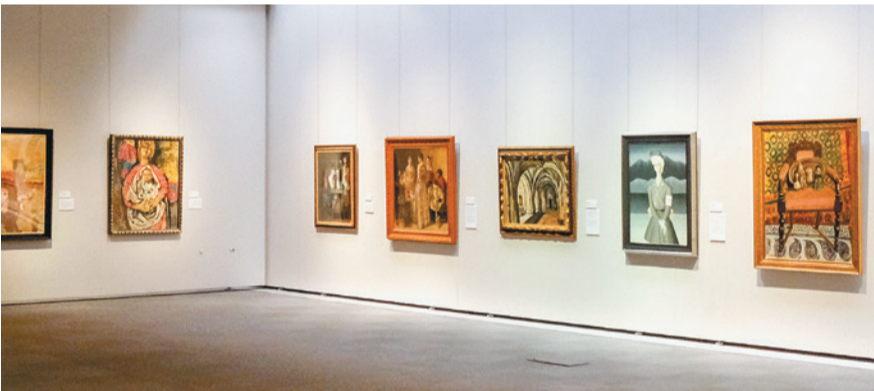
来場者に配りました。来場者からは、「あたたかくて懐かしい味。ほっと安心できる」「災害食とは思えないほどおいしかった」など、好評。中には、実際に食べてみて、被災地での炊き出し活動に興味をもったという方もおり、食を通して、5000人以上のブース来場者に災害時の食の確保の大切さを伝えました。



炊飯袋を身近に感じてもらうイベント「親子で炊飯袋にピーズを入れてみよう!」も実施

徳島発! 芸術で「人道博愛の心」を振り返る

東郷青児、東山魁夷、藤田嗣治、パブロ・ピカソ……秀作約40点と、日赤の活動に関する絵画・資料約70点が集結



会場には貴重な作品の数々が展示されました

徳島県支部創立130周年を記念する展覧会「今に生きる『人道博愛の心』美術に見る日本赤十字社の歩み」が、

徳島市の県立近代美術館で4月22日～6月11日まで開催されています。展覧会は第1章「日本赤十字社に

寄せる人々の思い」と、第2章「美術に見る日本赤十字社の歩み」の2部構成。第1章では、東郷青児の「ナース像」ほか、日本美術界を代表する作家から寄贈された名画や、赤十字の人道活動を未来へ語り継ぎたいとの思いを込めて描かれた秀作約40点が展示されています。

さらに、第2章では日本全国の美術館や資料館等の所有する日赤の活動に関する絵画が、作品の時代背景を説明する文書や写真などの歴史資料とともに紹介されています。

明治20年に全国で設立された6支部のうちの1つである徳島県支部。

そんな歴史ある徳島県で、赤十字創設の理念である「人道」「博愛」の心をもって懸命に駆け抜けた活動の歴史を振り返ることができる貴重な展覧会です。



赤十字旗に書かれた「従軍看護婦を送る寄せ書き」に見入る来場者

「とっさのとき、どうする?」は切り取って保存していただけます

file.2

とっさのとき、どうする?

ケガ編② やけど

やけどへの対処で大切なのは、炎症を抑えるためにすぐに冷やすことです。ヒリヒリとした痛みがなくなるまで流水を当て続けましょう。水ぶくれができていない場合は、患部を布などで保護して流水に当ててください。皮膚が破けるのを防ぐことが大切です。その後、滅菌ガーゼや清潔な布で患部を覆って冷やしながら病院へ向かってください。また、医師の診療の妨げになるので、軟膏、油、消毒薬などは塗らないでください。

やけどの重症度は、広さ、深さ、部位で決まります。程度が軽い場合は、病院に行かない人もいます。しかし水ぶくれが破れたとき

など、放っておくと化膿や感染症を引き起こすことがあります。赤み、腫れ、痛みは化膿の症状です。数日たっても赤みや痛みが引かないときは病院で受診しましょう。特に小さなお子さんは皮膚が薄く重症化しやすいので、程度にかかわらず受診したほうがよいでしょう。高齢者は、知覚の低下により、熱への反応が遅れることが多いので、注意が必要です。

なお、広範囲の熱傷や、熱傷の部位によっては特殊な治療が必要となりますので、すぐに医療機関へ搬送してください。

※詳細は赤十字救急法講習を受講ください。受講のお問い合わせは、日赤の各都道府県支部へ。

高温のフライパンを触ってしまった! 正しい対処法とは……?



1. 流水で、やけどをした箇所を冷やす(衣服の上からやけどをした場合は、衣服の上から冷やす)。
2. 近くに水道がない場合は、氷水をビニール袋に入れたものや、保冷剤をやけどをした箇所に当てる。
3. 痛みが取れたら、滅菌ガーゼや清潔な布で患部を軽く覆う。
4. 市販の薬(軟膏、油、消毒薬など)は塗らずに、病院へ向かう。

AREA NEWS



AREA NEWS

日々の生活や未来を支援するために。
全国各地、あなたの生活のすぐそばで、
日本赤十字社の活動は行われています。

愛知県

高層ビルからの眺望を楽しむ 献血ルームがオープン!

名古屋駅前にある46階建てビル「JR ゲートタワー」の26階に、4月20日、「献血ルーム ゲートタワー 26」が開設。地上約124メートルで、日本一の高さを誇る献血ルームです。

展望も良く、濃尾平野や鈴鹿の山々を一望でき、東海道新幹線も眼下に見えます。午後6時45分まで受付可能。山田高義名古屋駅前出張所長は「気軽に献血できるルームにしたい」と話します。



眺めが良く、開放感のある室内で献血を行うことができます

静岡県

早く元気になってね! 園児から手作りこいのぼり

4月25日、今年も静岡県支部に「小百合キッズホーム(保育園)」の園児たちが手作りのこいのぼりを届けに来てくれました。

青少年赤十字に加盟している小百合キッズホームは、昭和61年から32年継続して、「病気の子どもたちが早く元気になりますように」とこいのぼりを作って寄贈。静岡赤十字病院に飾られ、見る人を笑顔にしています。



手作りのこいのぼりを届けてくれた園児たち。うろこ部分に一つ一つ顔が描かれています

広島県

「地域の役に立ちたい」 決意を胸に学生消防隊へ入団

4月8日、「廿日市市消防団 機能別団員発足式」が開催され、廿日市市長、消防署・消防団関係者などが参加。日本赤十字広島看護大学の学生3人が新たに発足した学生消防隊の初代隊員となりました。

地域の役に立ちたい、交流を重ねたいという思いから消防団の活動に興味を持ったという3人。「看護学生の知識が役立つ機会がきっとあるはず」と笑顔で決意を見せました。



辞令を受ける
松岡里歩さん
(左)と伊藤博消防団長

兵庫県

巨大広域災害に備えた災害救護支援センターを開設

兵庫県支部は4月17日、兵庫県広域防災センター(三木市)の施地内に「日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センター」を開設しました。

近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震はもちろん、頻繁に発生するゲリラ豪雨・巨大台風など、多様化する災害への備えは喫緊の課題です。そこで、阪神・淡路大震災、東日本大震災で道路網の寸断やインフラの壊滅が迅速な活動の支障となった教訓から同センターを開設。兵庫県支部の藤原雅人事務局長は「東西南北に至る高速道路網の結節点に整備し、全国からの受援拠点や全国各地への支援拠点になり得る」と話します。平時には、実践的な救護活動の研修や訓練、人材養成の場となる予定です。

備蓄倉庫



迅速な救護支援を目的とする「日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センター」

「知ってて良かった!健康豆知識」は切り取って保存していただけます

日赤のドクター&ナースが教える

知ってて良かった!

健康豆知識

これから迎える暑い季節、気を付けたいのが“夏バテ”です。だるさ、疲れやすさ、無気力などといった特有の症状に悩まされたことのある人は少なくないでしょう。元気の源はバランスの良い食事ですが、暑いとつい食欲が落ちてしまい、「そうめんだけ」などとなりがちです。しかし、バランスの偏った食事を続けていると必要な栄養素を摂ることができず、ますます夏バテになりやすくなってしまいます。

そんな時期にぜひ食べていただきたいのが、豚肉です。豚肉は、ご飯やパンなどで摂取した糖質をエネルギーに変えるビタミンB1を多く含

豚肉と旬の野菜で夏バテ予防

前橋赤十字病院 栄養課 管理栄養士 山田玲菜
群馬県前橋市朝日町 3-21-36 TEL 027-224-4585 (代)



file. 36

んでいます。余分なビタミンB1は尿中へ排出されてしまい、体にためておくことができないため、毎日の食事から摂りたいものです。豚肉の他には、玄米などに多く含まれています。豚肉は、体を作るもとになる良質なたんぱく質も多く含みます。

また、豚肉と併せて食べたいのが旬の野菜。旬のものは栄養価が高く、ビタミンやミネラルが豊富です。この時期であればトマト、キュウリ、ナスなどの夏野菜を併せて食べると良いでしょう。主食・主菜・副菜のそろったバランスの良い食事、夏バテを予防していきましょう。



豚肉には糖質をエネルギーに変えるビタミンB1が多く含まれています。夏野菜と併せて摂取して、夏バテを防ぎましょう。

岐阜県

電話相談もOK！
女性のための「骨盤底ケア外来」

岐阜赤十字病院には、全国でも珍しい泌尿器科と産婦人科による骨盤底疾患に特化した専門外来「ウロギネセンター」があります。

膀胱や子宮が膣から脱出する骨盤臓器脱や尿もれなど、誰にも相談できず悩んでいた患者さんにとって、安心して相談できる場所です。骨盤底筋体操や行動療法、生活指導の個別指導を行うほか、毎月第1木曜日には電話相談も行っています。



骨盤底筋体操を指導する三輪幸看護師

岐阜県

外国人患者向けに最適！
英語版の問診マニュアルを出版

高山赤十字病院は3月31日、急増する外国人患者に対応するための『医療現場ですぐに役立つ外国人患者対応マニュアル』(メジカルビュー社)を出版しました。

受付や診察など場面ごとの対応や注意点について、英語での事例を交えながら紹介しています。すぐに使える英文書類のダウンロードも可能。研修テキストにも活用できる充実の一冊です。



監修者の棚橋忍院長(左)と編集者の竹中勝信副院長

赤十字 × SHORTSHORTS
FILM FESTIVAL & ASIA

戦争と生きるカプログラム

アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」が、6月1日(木)から25日(日)までの間、東京都内と横浜市内の会場で開催されます。

赤十字国際委員会は「戦争と生きるカプログラム」として移民や難民、銃社会など時勢を反映した12作品を上映します。入場無料、詳細は<http://jp.icrc.org/event/omotesando-event/>まで。



上映されるドキュメンタリー映画「アレppoへの道」(Journey To Aleppo)

さい帯血を提供してくれた
赤ちゃんの写真を募集中！



日本赤十字社では、さい帯血を提供してくれた赤ちゃん(1歳頃まで)の写真を募集中。写真は、日赤のパンフレットやSNSで、さい帯血バンク事業の普及啓発活動のために使用します。

さい帯血移植を受ける患者さんは年々増加傾向にありますが、さい帯血バンクの認知度は低く提供者が少ないのが現状。申し込み先などの詳細は<http://www.facebook.com/bank.bank.jrc/>まで。



赤ちゃんのお顔が写っているものであれば、どんな写真でもOK。個人情報不要です

常任理事会開催報告

平成29年5月19日、本社において平成29年度第2回の常任理事会が開催されました。

1 不動産の処分について
(日本赤十字社九州ブロック研修センター「アソシエート」の閉館等にかかる不動産の処分) 審議の結果、原案のとおり議決されました。また、平成28年熊本地震災害の検証結果及び今後の対応について、報告しました。

第90回代議員会開催公告

平成29年6月23日(金)、午後1時から新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」(東京都千代田区霞が関3丁目3番2号)において第90回代議員会を開催し、下記の事項を付議いたします。

平成29年6月1日

記

- 第1号議案 役員の選出について
- 第2号議案 平成28年度事業報告及び収支決算の承認について

present プレゼント

全国赤十字大会に出演した
谷村新司さんのサイン色紙を
2名様にプレゼントいたします。



以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS 6月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
- ⑥6月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？(いくつでも)
A.表紙 B.命を見守る人として C.赤十字運動月間
D.レッドライトアッププロジェクト E.食博覧会
F.美術展 G.とっさのとき、どうする？ H.エリアニュース
I.健康豆知識 J.Voice K.プレゼント
L.ワールドニュース M.長崎会議に参加して
- ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

郵送/〒105-8521
東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社
広報室 赤十字NEWS 6月号プレゼント係
FAX/03-6679-0785 メール/koho@jrc.or.jp
(件名「赤十字NEWS 6月号プレゼント係」)
6月26日(月)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

支援してもらいたい理由がここに！
活動資金ご協力をお願い

災害時、日本赤十字社に寄せられた義援金は、その全額が被災者の方々に届けられます。

一方で、被災地での医療救護活動や、被災地の皆さんに配布される救援物資には、義援金は一切使われていません。日赤の災害救護活動や国際救援活動、青少年への防災教育活動、救急法の講習など、人間のいのちと健康、尊厳を守る人道支援活動は、すべて皆さまからの会費やご寄付である活動資金によって成り立っています。

皆さまからの会費やご寄付が、人道支援活動の支えとなります。ご協力には以下の方法があります。

- ① お住まいのお近くの赤十字窓口から
(全国47都道府県に支部を設置しています)
- ② 口座振替による継続的な支援
- ③ クレジットカードによる継続的な支援



詳しくは、本社パートナーシップ推進部(03-3437-7081)へお問い合わせください。または、日赤ウェブサイトをご覧ください。

日赤 活動支援 検索

<http://www.jrc.or.jp>

ヴォイス

VOICE

赤十字NEWSにお寄せいただきました読者の皆さまの声をお届けします。

赤十字の苦しんでいる人を救いたいという思いにとっても共感しています。今年で大学を卒業し、来年からは教育業に携わります。きっかけがあったら子どもたちにも“人の支えになること”について伝えていきたいと思っています。(阿部さん/宮城県仙台市)

両手で誰かの役に立てる人になりたいと思いました。(今井さん/三重県津市)

今回、自分の母校である名城大学薬学部が記事になっていました。在学当初からJRC(青少年赤十字)のことは知っていましたが、改めて活動内容を知ることができました。(高井さん/岐阜県岐阜市)

WORLD NEWS

国際赤十字・赤新月運動会議



発表に聞き入る35カ国、約80人の参加者たち。実り多い会議となりました

長崎から世界へ——。 核兵器禁止条約制定への強い願い

4月24日、長崎にて国際赤十字・赤新月運動会議を開催し、核兵器廃絶を目指す行動計画を議論しました。被爆国である日本から、世界へ。核兵器廃絶の願いが発信されました。

核兵器の禁止と廃絶に向けた国際赤十字・赤新月運動会議が4月24日から26日、長崎で開催されました。会議は赤十字国際委員会(ICRC)と日本赤十字社が共催し、各国赤十字社・赤新月社の代表が35カ国から約80人参加。核兵器問題に対し多様なバックグラウンドを持つ国の参加者が、さまざまに意見を交換しました。本会議は、核兵器禁止条約の制定に向けた国連での議論の後押しとなることを見据え、今後の赤十字・赤新月運動の活動方針を協議する機会として行われました。

会議の冒頭、国際赤十字・赤新月社連盟会長を務める日赤の近衛忠輝社長は、国連の核兵器禁止条約制定に向けた第2回交渉会議が6月中旬に始まることを踏まえ、「核兵器禁止条約は赤十字・赤新月運動の理念と合致し

ており、何としてもこの条約が実現する絶好の機会を逃してはなりません」と言明。また、ICRCのクリスティーヌ・ペーリ副総裁は、「私たちは今、重大な岐路に立っています。赤十字運動が(核兵器禁止条約制定の進展に向け



参加者たちは長崎原爆資料館を訪れ、原爆による凄惨(せいさん)な被害の歴史を学んでいました

て)声を上げ続ける責務を担っているのです」と、赤十字が核兵器廃絶を訴える重要性を強調しました。

3日間の会議を終え、採択された「長崎行動計画」には、各国赤十字社・赤新月社がそれぞれの政府と対話を行い、核兵器禁止条約制定のための交渉への参加を促すことや、核兵器がもたらすリスクを再認識し、早急なリスク軽減措置を求める内容が盛り込まれました。



会議に先立ち、近衛社長より原子爆弾落下中心地碑へ献花が行われました

また、若い世代に対する核兵器をめぐる意識向上の必要性も確認されました。今年11月には、国際赤十字・赤新月運動代表者会議において、核兵器禁止と廃絶に向けた新しい決議、および4年間の赤十字・赤新月運動行動計画をICRC等と共に共同提案する予定です。

本会議では、被爆地である長崎を訪問し、被爆者の体験に耳を傾け、核兵器廃絶への思いを新たにした参加者が「長崎宣言」として決意を表明。「核兵器のない世界を実現することは、未来の世代への義務であり、人類を存続させるために課せられた私たち共通の責務です」と訴えています。私たちは核兵器の時代に終止符を打てるかどうかの瀬戸際に立っています。この絶好の機会を逃すことなく、この潮流を後押しすべく、赤十字・赤新月運動は声を上げ続けます。

※長崎宣言の全文は、日赤ウェブサイトよりご覧いただけます。

http://www.jrc.or.jp/information/170426_004754.html



日赤の近衛忠輝社長(左)とクリスティーヌ・ペーリICRC副総裁

長崎会議に参加して

過去に学び 今を生き 未来に期待する

私は現在ロンドン大学で日本赤十字社の歴史学研究を行っています。そして、今年4月に開催された「長崎会議」に参加しました。被爆の瞬間から行われた日赤の原爆救援史について発表し、被爆者支援が宗教や政治紛争を超えた普遍的な人道活動であったことを強調しました。

会議では、採択宣言が推敲されていく過程や、史料の背後に渦巻くさまざまな人間の思いや動きを目の当たりにすることができました。これまで史料を通して歴史が動く瞬間について研究してきた私にとって、過去に対する想像的理解

を豊かにする貴重な体験となりました。大局的には、国際情勢が混沌とする中で、国際赤十字・赤新月運動は、かつてないバランス感覚で、機密性を保持すると同時に、確かな発信力も求められている時代なのだ改めて思いました。

歴史学は、学際的な研究がますます求められる時代になっています。これからも、どのような分野の専門家を前にしても、赤十字史研究が説得力ある主張を持って展開されるよう邁進し、研究が将来の国際赤十字・赤新月運動の活性化につながるよう努めていきたいと思ひます。



鈴木 路子

Michiko Suzuki

ICRC駐日事務所元職員
日本赤十字社元職員
ロンドン大学博士課程(PhD) 史学専攻在籍